

会 議 録

(1 / 7)

会議の名称	平成27年度第1回川越市美術館協議会
開催日時	平成27年 6月 2日 (火) 午後 3時00分 開会 ・午後 4時30分 閉会
開催場所	川越市立美術館会議室
議長(委員長・会長)氏名	会 長 可 児 一 男
出席者(委員)氏名 (人数)	委 員 梅 津 元 委 員 井 口 修 一 委 員 高 杉 雅 章 委 員 高 橋 康 夫 委 員 吉 田 実 (5名)
欠席者(委員)氏名 (人数)	副会長 松 岡 滋 委 員 小 山 昭 三 委 員 宮 澤 光 造 (3名)
事務局職員職氏名	館 長 上 野 正 主 幹 谷 平 絵美子 (遅参) 副主幹 永 島 芳 典 副主幹 横 山 り え
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画について (2) その他 4 閉会
配布資料	・ 次第 ・ 川越市立美術館協議会委員名簿 ・ 平成27年度第1回川越市立美術館協議会資料 ・ 平成27年度展示案内(EXHIBITION SCHEDULE) ・ ジュニアガイド

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
館長	1 開会 本日の協議会は委員の過半数が出席しているので、川越市立美術館条例第13条第6項に基づき、会議が成立することを報告いたします。
会長	2 あいさつ 多くの方々が美術館にいらしていただきたいと願っている。少ない職員数で一生懸命やっていると感じており、当協議会としても美術館の発展のために、協力していきたいと考えている。 今年度の人事異動について、事務局から報告願いたい。
館長	今年度から事務職の永島副主幹が転入となりました。 【自己紹介】館長、横山副主幹、永島副主幹 協議会の議事進行については、川越市立美術館条例第13条第2項に基づき、会長にお願いします。
議長（会長）	3 議事 (1) 平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画について、事務局から報告及び説明願います。
横山副主幹	平成27年度第1回川越市立美術館協議会資料に基づき、「平成26年度展示概要」及び「平成27年度展示予定」について、報告及び説明を行う。
館長	新任の委員がおりますので、補足説明をさせていただきます。川越市立美術館は、大きく3本の柱で運営しています。①市民の創作活動の場として、創作室の有料貸し出し、②発表の場として、市民ギャラリーの有料貸し出し、③鑑賞の場として、常設展、特別展、タッチアートコーナー、相原求一朗記念室を設置しており、全て年4回の展示替えを行っています。 特色としては、タッチアートコーナーを設置していることです。これは、作品を直接手で触れることができ、特に、視覚障害者の方々が美術に親しみ、楽しむことができる展示となっています。

	<p>また、常設展は、川越にゆかりのある作家の作品を展示しています。観覧料につきましては、市民ギャラリーとタッチアートコーナーは無料、相原求一朗記念室及び常設展については200円、特別展については、展覧会によって、500円もしくは600円を目安として、設定しています。年4回の展示替えを行うことにより、偏りのない企画に努めているところです。</p>
議長（会長）	<p>質問はありますか。</p> <p>平成27年度中に開催する「この絵、私が持ってました。収集家安齊羊造と近代日本画家との愉快的交流」であるが、これは寄贈による展覧会なのか。</p>
館長	<p>作品をお借りして開催します。</p>
議長（会長）	<p>他に質問はありますか。無いようであれば、事務局からの説明を続けてください。</p>
館長	<p>平成27年度第1回川越市立美術館協議会資料に基づき、「美術館データ表」及び「特別展記録」について報告及び説明を行う。</p>
議長（会長）	<p>昨年度の「没後300年 柳澤吉保とその時代」は、博物館でも開催したが、観覧者数は博物館の方が多かったのか。</p>
横山副主幹	<p>同展については、博物館と美術館が連携して開催しました。そのような点からも、どちらが多い少ないというよりも、2館で1つの展覧会を開催したという状況です。</p>
井口委員	<p>過去に開催した「北大路魯山人展」についても、博物館とともに開催を行ったと記憶している。</p>
吉田委員	<p>美術館として、平成26年度の総括を踏まえたうえでの平成27年度の展示方針を伺いたい。</p>
館長	<p>常設展はもちろん、特別展に関して特に力を入れたいと考えています。例えば、今年度4月から開催している「写真家が捉えた 昭和のこども」は美術館として、初めての写真展を試みました。7月からの「美術館</p>

	<p>に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」は、夏休み期間の親子連れをターゲットにしています。また、10月からの「ペインティングの現在 4人の平面作品から」については、川越を中心に埼玉県西部地域の現代作家を取り上げます。2月からの「この絵、私が持ってました。収集家・安齊羊造と近代日本画家との愉快的交流」については、川越ゆかりの美術コレクターにスポットライトをあて、明治、大正、昭和の作品コレクションを取り上げます。以上のように、特定の趣味に偏らず、バランスを考えて開催していくという方針であります。</p>
吉田委員	<p>平成28年度の開催もそのような方向性でいるのか。</p>
館長	<p>特別展で言えば、主要な展覧会を1つ設け、メリハリをつけるため、他の展覧会はバランスを考えて企画するという考えもできると思います。美術館としては、年4回の開催全てに力を入れる所存ではありますが、もちろん予算面での制約が発生することも予想されます。</p>
議長（会長）	<p>美術館での特別展は年4回ということであるが、埼玉県立近代美術館はどうか。</p>
梅津委員	<p>特別展については年5回開催している。公立美術館においては、年4、5回の開催は妥当であると思う。</p>
吉田委員	<p>「ペインティングの現在 4人の平面作品から」は、現代美術に興味がある方が対象になると思うが、美術館に4人の作家を招いて、作家と観覧者が話し合ったりできるような場を設定することは考えているか。</p>
横山副主幹	<p>ワークショップや対談などを企画している段階である。</p>
吉田委員	<p>作品に興味がある方はもちろん、作家個人に興味がある方々もいると思う。作家がそこにおいて、直接話ができる機会があれば、新たなコミュニケーションが生まれ、さらに美術に対する魅力や理解が深まるとともに、広がりがでると考える。</p>

館長	<p>これまでの特別展もそうですが、作家とともに作品を作ったり、ディスカッションしたり、作家に詳しい講師を招いて講演会を開催するなど、より身近に美術の魅力を感じていただく企画を開催しています。こうした企画につきましては、今後も充実させていきたいと考えています。</p>
吉田委員	<p>そうした機会があれば、観覧者は美術の魅力や作家と話をしたという経験を持ち帰り、美術に対する理解も広まることが期待できる。「収集家・安齊羊造と近代日本画家との愉快的交流」については、学芸員の研究成果としての展覧会という意味で意義深い。図録なり解説なりを読んで理解しなさいという展示方法ではなく、川越との関わりが誰にでもよく理解できる「道筋」のようなものを示す工夫をしてほしい。観光でいらした方も興味を持つような内容にしてもらいたい。</p>
館長	<p>教育普及事業について、担当者から説明をさせていただきます。</p>
主幹	<p>平成27年度第1回川越市立美術館協議会資料「教育普及活動と学校との連携について」に基づき、報告及び説明を行う。</p>
議長（会長）	<p>昨年、市と川越市美術協会で行っていた作品展は何か。</p>
館長	<p>「川越百景絵画展 児童・生徒の部 第1回展」です。協働事業として開催しました。</p>
吉田委員	<p>美術館で行うワークショップは、美術館まで来ることができる方々が対象となる。したがって、距離的な面での制約なり、範囲に限られるなど、来られない方々もいると思われる。美術館職員が出前講座を行うこともいいのではないか。</p>
館長	<p>ワークショップ等の応募要件に、市民に限るという条件はつけておりません。所沢市にお住まいの方が参加することもありました。出前講座につきましては、現在、美術館における教育普及事業を一人で担当しておりますので、出前講座を行うことは、マンパワー的に困難であ</p>

議長（会長）	<p>ると考えております。</p> <p>他市からも受け入れるのは良いこと。近時、観光客は川越市に少しだけ滞在し、その後小川町に行って、和紙作り体験を行うといった話を聞いたことがある。</p>
高橋委員	<p>教育普及事業で、出前講座が困難ということであるが、当協議会委員の中にも美術の専門家がいる。そうした委員とともに、学校に出向くことはできないか。また、これまでの協議会の中で、観覧者数及び観覧料収入を増やすことが必要と訴えてきたが、「写真家が捉えた 昭和のこども」については、熱心にアンケートを書いている方も見かけたが、観覧者数は少ないように思える。写真展が美術館にふさわしいか、そうでないかは別として、特別展の開催により観覧者数及び観覧料収入を増やしていくことが必要である。市民だけでなく、他市の方に来ていただくのは重要である。そのための周知としては、ホームページでの情報発信である。ただし、それだけではなく、例えば小中高校にポスターを掲示していただいたり、自治会掲示板に掲示していただいたりする努力も必要。今まで以上に美術館の宣伝をしてもらいたいと思っている。また、事務局に質問であるが、市民ギャラリーの利用状況はどのようになっているのか。中央図書館に行くことがあるが、そこで美術展をやっている時がある。そうした方々に市民ギャラリーを利用してもらうことはできるのか。</p>
館長	<p>市民ギャラリーについては、基本的に1週間単位で貸し出しており、今年度については、すべて予約でいっぱいとなっております。</p>
井口委員	<p>美術館が教育委員会部局に組織されていた頃、美術館の観覧者をどのように増やしていくかについて、考えたことがある。現在、小学6年生の見学が多くなったが、4から6月に小学生を対象にした特別展を開催すると、さらに観覧者数が伸びるのではないか。小中学生の来館者数が増えれば、今度は別の日に家族と一緒に来ると思われ、さらに身近な場所になると思う。美術館が教育普及事業に力を入れていることがよく理解でき、児童生徒が美術館に行くことで、ますます図工や美術が好きにな</p>

高杉委員	<p>るという流れができれば良いと思う。</p> <p>美術館に限られた人員と予算の中で、様々な取り組みを行っており、特に教育普及事業に対する熱心な取り組みについて感心する。子どもの頃から美術に慣れることは良いこと。今後、高校生の発表の場としても機能すればとますます良くなると感じた。</p>
梅津委員	<p>埼玉県立近代美術館においても、教育普及事業については、小中学生を対象に教員を配置して手厚くやっている。今後、高校生をどのように巻き込んでいくかは課題であると思う。また、美術館は情報を収集して発信することだけになりがち。双方向性が足りない傾向がある。埼玉県立近代美術館では、ツイッターやフェイスブックを始めたが、観覧者の意見がどんどんと入ってくる。参考にさせていただきたい。</p>
議長（会長）	<p>観光客も目玉作品があれば、来館するのではないか。埼玉県立近代美術館などから優れた作品を借用するなど考えてみては。また、ミュージアムショップを開設することも観覧者増につながると思う。</p>
梅津委員	<p>2月の特別展「この絵、私が持ってました。」というタイトルが良い。特別展の開催にあたり、学芸員が熱心に研究していることは承知しているが、このタイトルだけでも、観覧者は増えるのではないか。タイトルは重要である。10月の特別展「ペインティングの現在」も、ポスター・ちらしなどで、タイトルを工夫してみてもどうか。</p>
議長（会長）	<p>(2) その他 無いようなので、これで議事を終了する。</p> <p>4 閉会</p>